

2 その頃、久留米城は・・・

久留米城は、16世紀に高良山勢力の拠点として、原型となる砦が築かれたといわれます。その後、小早川秀包の居城となり、ついで筑後一国を領した田中吉政により支城に定められました。大坂の陣で豊臣家が滅亡、天下泰平の世が訪れ、一国一城令(1616)が出されます。豊氏が領主に決定した時には、久留米城は廃城同然の状態でした。

1 おりま とよひ 有馬豊氏、久留米入城

元和6年(1620)8月、筑後一国を治めた田中家は、初代吉政の跡を継いだ2代忠政が後継ぎのないまま病没し、改易となりました。同年12月、北筑後21万石の領主に有馬豊氏が選ばれました。丹波福知山8万石からの加増は大出世です。

翌年、豊氏は初入国し、久留米城に入ります。



1621年、有馬豊氏、筑後国久留米21万石

1601年、有馬豊氏に丹波国福知山6万石
1602年、父則頼の遺領をあわせて8万石

1601年、有馬則頼に摂津国三田2万石

21万石のトップは、どのような城下町を構想した!?

有馬豊氏の都市計画

北筑後に広がる領国を治めるため、久留米の地を拠点と定めた豊氏。久留米城と城下町の将来の姿をどのように想定したのでしょうか。その整備工事は、藩主4代にわたる大事業となります。

有馬の
城づくり、
町づくり!

3 天守がない平和の城

天下はすでに泰平の世、久留米城の本丸には天守は築かれず、本丸御殿が建てられ、その周りは7つの櫓を2層の多聞櫓で連結して取り囲みます。そのうち最も高い造りの御櫓が、天守の代わりに物見の役割を担いました。

本丸御殿は政治の場、二ノ丸御殿は藩主の生活の場とし、三ノ丸には家老屋敷、外郭(四ノ丸)には上級家臣の屋敷や藩の役所を置きました。



明治初年の久留米城 (久留米市教育委員会蔵)

4 本丸をてっぺんに、筑後川を堀に 自然のでこぼこを活かす

本丸は、周囲を広く見渡せる丘陵の頂上部にあります。北に九州一の大河・筑後川が流れ、東には灘地帯が広がっていました。

本丸の正門は、田中時代には東向きでしたが、豊氏は南向きに付け替えました。筑後川を天然の堀とし、21万石にふさわしい大都市を、本丸以南へ展開することにしました。

城は、本丸から下りながら南に向かって二ノ丸、三ノ丸、外郭(四ノ丸)を連ね、各郭に内堀を、台地の縁辺に沿って外堀を廻らせます。

城下町は、外郭の南面に広がる谷部分を埋め立て、整地して町屋とし、その周りの比較的標高の高い土地を武家屋敷に決めました。城と城下町は堀で明確に分け、外郭の4か所に城外との出入り口を設けました。

5 4代つないだ工事のバトン 田中時代の道路もつなく

武家屋敷は、豊氏の代には京橋小路・榎原小路に上中級武士の居住区が出来始め、のちに重臣の下屋敷が置かれる十間屋敷の建設にも着手します。4代頼元の代までに、下級武士が居住する庄島小路、鉄砲小路が整備されました。

城内予定地から町人や寺社を城外へ移転させました。寺は、福知山から伴った僧が創建した寺とともに寺町の基礎を形成し、また城下町の各口にも配置して防備の拠点としました。神社は、祇園社(素戔嗚神社)を外郭に残し、山王社(日吉神社)を十間屋敷へ移しました。

田中時代に4丁目まであった長町(のち通町)は、豊氏の代には9丁目、2代忠頼の代には10丁目まで延長するほどに発展しました。また、城下町の中心部に呉服町、両書町、片原町などを配置し、さらに三本松町の南には柳川往還(田中道)に沿って原古賀町を拡張させていきました。

豊氏が繁栄への想いを込めた大都市・久留米城下町。その基礎は、4代頼元の代に出来上がりました。

